

## 六斎市復活プロジェクト事業

### 取り組みに至る背景・事業の目的

本町商店街は飯山市の中心市街地に位置し、長年地域の経済活動を支えてきたが、近年の景気悪化、災害被害等により空地化が進み、人の流れが少なくなるとともに、地元のお年寄り等が身近で食料品を購入する場も減ってしまった。

そこで、商店街の新たなにぎわい創出に向けて、江戸時代に開催されていたという「六斎市」を現代に復活させるプロジェクトをスタートさせた。

これにより、地域住民や観光客が地元商店、農家などの販売者とふれあいながら買い物できる場を提供するとともに、主として地元の農産物や加工品を販売して地産地消を推進し、将来的には新幹線飯山駅開業に向けて観光スポットとなる「朝市」への発展を目指す。

### 事業内容

#### ○六斎市販売場所の整備

商店街の中心にある「ぶらり広場」に寺と城の町飯山をイメージできる販売場所を整備した。材料には県産材を使い、商店街組合員、まちづくり団体、地域住民が参加して組み立て作業を行った。

#### ○六斎市にぎわい創出事業

地元商店や農家を中心に出店者を募り、毎月2と6の日に六斎市を開催した（平成20年は6月中旬から12月まで34回開催）。また、六斎市を広くPRするため、のぼり旗、看板等を製作した。



### 事業効果

- 安心、安全、地産地消、コミュニティを前面に出して「まちのマーケット」として地域住民の間で定着、来店者も徐々に増え夕方2時間の間に約150人が訪れるようになった。
- 自由に使えるお休み処を用意しており、お茶を飲みながら井戸端会議を楽しむなど住民同士の貴重なふれあいの場としても利用されている。
- 平成21年度からはみゆき野青年会議所も参加し、スペシャルバージョンの「みゆき野六斎市」を開催、環境やまちづくりを考えるワークショップを同時に行うなどして多くの市民が参加するイベントになっている。
- 法政大学人間環境学部小島聡教授（行政論・地方自治論）のゼミが六斎市をフィールドワークの場として活用し、講演会やまちおこしについてのワークショップを協働して開催するなど、大学との連携が生まれている。
- 北信地方事務所も間伐材を使ったマイ箸づくりとベンチづくりのイベントに協力するなど、六斎市を触媒としてさまざまな分野の人との交流、連携が着実に進んでいる。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

#### ○これからの六斎市のあり方

→大型ドラッグストアが開店、ライバルではなく共存共栄で更なるにぎわい創出へ

#### ○商店街のイメージづくり

→城下町の意識、若者の意見にも耳を傾ける姿勢を持ちながら商店街、地域のイメージづくり

#### ○新幹線によるまちなか観光での活路

→新幹線駅からの商店街への誘導、「朝市」の開催等による商店街、地域の活性化へ

#### ○地域間交流の充実

→大学、地域づくり団体などを通じた地域間交流、新幹線開通後を見据え都市との交流を大切に

#### 【選定のポイント】

商店街のにぎわい創出と地域の買い物の場の提供から始まった取り組みが、地元自治体、青年会議所、大学との連携による市街地活性化の取り組みに発展している。

団体名	飯山市本町商店街協同組合（飯山市）	事業タイプ	ソフト事業、ハード事業
連絡先	代表理事 滝澤博信 電話 0269-62-3060	事業費	3,571,096円
		支援金額	2,374,000円